

市民力・地域力を「教育」にも!



大谷 弥生 議員

子供たちの学力格差が社会問題となり、本市では放課後や土曜日、夏休みなどを利用した補習等を独自に取り入れている学校がある。実施している学校を教育委員会は把握しているのか。

教育長

小学校においては、地域ボランティアに協力いただいて、週4日程度、放課後の補習を実施している取り組みが見られる。また、多くの中学校においては、土曜日や夏休みなどを活用し、3年生が希望の進路を実現できるように補習等を実施している。主に教員が行っているが、地域の方々と大学生などにボランティアとして協力いただいている学校もある。



▲独自に行われている学習会の様子

◆市民力

市長が「市民力」という言葉を通じて市民に伝えたい思いを聞きたい。

市長

「市民力」はこれからのまちづくりに欠かせない重要なキーワードである。私は、「自分たちのまちを自分たちが主体となって、よいまちにしていこう」という強い思いや志を持った市民の方々とともに、これからの足利市を精一杯、元気で輝くまちにしていきたいと考えている。

雨水利用の推進を!



富永 悦子 議員

雨水の利用の推進に関する法律が平成26年5月に施行された。この法律は水資源の有効な利用を図り、下水道や河川等への雨水の集中的な流出の抑制を目的としている。貯水した雨水を活用する雨水タンク設置の促進と個人が設置する場合の助成について聞きたい。

上下水道部長

貯留した雨水はトイレの水や庭の散水などに利用でき、道路冠水の緩和策としても期待できる。市民に対し、雨水利用に関する情報提供を行い、設置を促進していきたい。また、個人が設置する場合の助成については、国の補助制度の内容や先進自治体の事例を調査研究していきたい。

◆交通弱者対策

生活路線バスが運行していない地域は公共交通の空白地帯である。高齢化が急速に進む社会においては、高齢者の交通手段の確保が重要であると考えるがどうか。

生活環境部長

生活路線バスの運行拡大が解決手段となるのではなく、地域の状況に応じた課題解決に最適な移動手段を選択し導入することが、有効で持続可能な移動手段の確保につながるかと考える。



小俣処分場問題は早急に解決を図るべき!



渡辺 悟 議員

現在、小俣処分場用地の契約更新問題は市民生活に関わる重要課題である。市長は政治家として、あらゆるチャンネルを使い、早急な解決策を模索すべきと考えるがどうか。

市長

目先の利益、不利益に振り回され、将来にわたって大切なことが失われることがないよう、中長期的なことも含めて考えていかなければならない。引き続き、市長として、政治家としてあらゆる方法を使い、解決に向けて努力していきたい。

◆観光行政

東武足利市駅に開設した「あし・ナビ」は電車で訪れる観光客から利便性が高まったと評価されている。バスや車で本市へ訪れる方々の観光拠点である「太平記館」も愛称を公募し、足利らしく、覚えやすい名称に変更してはどうか。

産業観光部長

平成25年にオープンした足利観光交流館は「あし・ナビ」の愛称がすっかり定着した。一方、「太平記館」は平成3年に放送されたNHK大河ドラマ「太平記」を記念して設置され、市民に親しまれてきた。二つの名称のバランス的な観点からも、愛称の公募については今後検討していきたい。



▲足利観光交流館「あし・ナビ」

スポーツ少年団の創設を！



末吉 利啓 議員

問 県内では本市にだけスポーツ少年団が存在しない。子供たちのスポーツ環境を改善するため、同少年団の創設を前向きに検討すべきではないか。

教育次長 本市では、小学校体育連盟において、小学校が中心となりスポーツ活動を指導、推進してきた経緯があり、現在その種目の大部分は地域の学童スポーツクラブに移行して活動している。スポーツ少年団の創設については、地域のスポーツニーズを把握している足利市体育協会並びにその専門部や各支部と研究を進めたい。

◆こども医療費助成制度

問 子育て世代にとって同制度の現物給付は重要な支援策である。国や県の動向を踏まえ、対象年齢を中学校3年生まで拡大すべきではないか。

市長 現物給付制度の拡大は、財政的余裕があれば実施したいのはやまやまである。要望があるのも理解している。しかし、安易に受け入れず、本市をいまちにしていくためにどうすべきかという視点で、もっともっと深い議論をするのが我々の役割だと思っている。



生活困窮者自立支援制度の充実を認め！



平塚 茂 議員

問 ことし4月から同制度が開始されたが、本市での事業内容を聞きたい。また、病氣やひきこもり等で相談に来られない方には、支援員による訪問も行うべきと考えるがどうか。

福祉部長 必須事業の自立相談支援事業と住居確保給付金の支給を4月から実施している。また、任意事業として生活困窮世帯の子供の学習支援事業を実施した。相談業務については訪問で相談に応じたこともあり、今後も必要に応じてきめ細やかな対応をしていきたい。

◆毛野地区の浸水・冠水対策

問 川崎町や毛野新町、鶴木町地内では、台風や集中豪雨により道路が冠水し、住宅が浸水する被害がたびたび発生する。対策について聞きたい。

都市建設部長 この地区の最も効果的な対策として、栃木県が管理する一級河川尾名川の未改修区間の整備が必要であると考える。平成26年度より、県に対し整備を要望しており、河川改修に向けた準備が現在、進められている。また、市が管理する準用河川尾名川区間においては、堆積土のしゅんせつ（泥さらい）や農業用水門の改修を今年度行う予定である。



▲尾名川の未改修区間

「都市宣言」で魅力あふれるまちづくりを！



小林 克之 議員

問 本市では全国に先駆けて平成12年に歴史都市宣言を行った。貴重な歴史遺産を守り、継承していくために行っている主な取り組みを聞きたい。

教育次長 本市ならではの特色ある事業として文化財の一斉公開があり、毎年、市外からも大勢の観光客が見学に訪れている。今後も歴史都市宣言のまちとして、市民の文化遺産に対する保護意識を高めるとともに、文化財を活用し市民と行政の協働により個性豊かな魅力あふれる足利らしいまちづくりを進めていきたい。



▲文化財一斉公開2015のパンフレット

◆福祉都市宣言

問 児童や高齢者、障がいをもった人たちと豊かに暮らせる、活力あるまちをつくるための主な取り組みを聞きたい。

福祉部長 他市に誇れる事業として、市内全ての地区の自治会連合会で実施している「健康の日」健康づくり活動や、介護予防のための高齢者元氣アップトレーニング事業、天候に左右されずに遊べる屋内子ども遊び場「キッズピアあしがが」の開設などがある。今後も宣言の理念に沿い、福祉都市の推進に努めていきたい。